

阪神淡路大震災から14年

『災害時医療支援船構想』
災害時医療を海から支援する活動の『新展開構想』を
『日本集団災害医学会』で講演しました

2009. 2. 13
神戸国際会議場メインホール

医療の世界と海の世界が連携して、災害時に船を活用して医療支援を行う活動を具体化した本構想は、既に関西圏プロジェクトとして確立され、2007年11月に、産官学民の方々を招いて実施した、[「災害時医療支援船構想プロジェクト成果報告会・海陸連携支援システム運用説明会」](#)を経て着実に社会に根付きつつあります。

ここまでの活動は、災害時に往々にして支援の手が後回しになりがちな慢性腎不全患者を、近郊の港に船で搬送し透析維持を確保する活動を主な目的としてきました。その後2008年に入り、[徳島における患者搬送訓練](#)（2008年3月22日・23日）、[日本透析医学会学術集会シンポジウム](#)（2008年6月20日）、[兵庫県透析研究会特別講演](#)（2008年10月26日）での議論を通じて今後への展開について検討が重ねられ、この度、これらの成果を「日本集団災害医学会」第14回学術集会（2009年2月13、神戸国際会議場メインホール）において発表講演しました。

講演の概略

平生は健常者である維持透析の、患者搬送からクラッシュ症候群により、緊急透析が必要な患者に対する海上支援のあり方、また、岸壁での医師によるトリアージにより乗船できなかった患者に対する、海上からの医療支援の可能性をテーマに、

1. 維持透析から緊急透析への海上支援の拡大の必要性について、
2. 搬送から取り残された患者に対する港頭加療の実施について、そして、現場での運用をより実質的なものにするため、
3. 地域の基幹病院を核とした医療側と海側との協力連携について、
4. 地域ベースの活動を核に、国ベースで総括することによる機能定着について解説する。

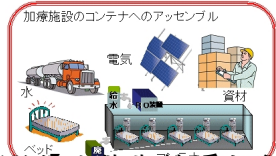
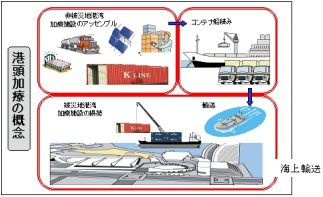
解説

災害時医療を海から支援する活動の「新展開構想」

- ◆ キーワードは、
継続通折から緊急通折へ
- ◆ 海上搬送から港頭加療へ

参考資料(港頭加療)

医療支援船の最新展開構想 医療施設近郊に展開



連携研究を強化し医療支援船の発展を促すことのないように、医療界と海の世界の